

平成23年度（第12回）

子どもと若者を育てる 青少年育成 八雲住民大会

趣 旨

未来に生きる青少年が、心豊かにたくましく成長してくれることは、町民の心からの願いであります。しかし、青少年をとりまく環境は、多様で深刻な社会問題の出現、いのちを軽んじているような社会風潮、道義心の薄くなった大人の姿、弱くなった家庭や地域の教育力など、極めて好ましくない状況にあります。

そこで本会は、「大人が変われば子どもも変わる運動」「やくも家庭の日運動」「住民総ぐるみあいさつ運動」の三大運動を柱に、〈家庭〉〈学校〉〈地域〉の連携による青少年育成の地域づくりに努めています。

講演のテーマは「いのち」。あなたにとってもっとも大切なものは何ですか。

日 時：平成23年11月26日（土）13:30～16:00

会 場：八雲社会福祉センター・アルバホール

プログラム

○オープニング

美月波としやの会：日本舞踊こども教室

- （演目） 1. 藤の花 2. さくら 3. お猫道中
4. 長唄「越後獅子」 5. 長唄「雨の五郎」

○特別講演

演 題：「いのちをみつめて」

講 師：江角弘道さん

主催：八雲青少年育成の会、八雲ジュニアサポーターズクラブ

共催：八雲中学校、八雲中学校PTA、八雲ライオンズクラブ

オープニング

美月波としやの会：日本舞踊こども教室

美月波としやの会：日本舞踊こども教室は平成18年に開校されました。日本の民族衣装による「着物」に親しみながら、礼儀作法を身につけ、日本舞踊を楽しく学ぶ教室です。今回の演目は1. 藤の花 2. さくら 3. お猫道中 4. 長唄「越後獅子」 5. 長唄「雨の五郎」を教室の小学生、中学生、高校生が舞います。「ふるまい向上」のヒントとしてご覧ください。

特別講演

演題：「いのちをみつめて」

講師：江角 弘道さん

1945年出雲市生まれ。島根県立大学短期大学部名誉教授、理学博士、仁照寺住職。物理学の研究者であるが、平成11年に娘さんを悪質な飲酒運転で亡くしてから、「いのち」について仏教的に思索し、その考えをもとにいのちの大切さを説く。

「いのちをみつめて」講演要旨

「命が大切」であるとは、誰もが知っていることです。今までなら、どんなに言葉を使って訴えられても、その聞き慣れた言葉は、「今更そんなことわかっているわ」と聞き流しているのが常でした。しかしながら、私が、この言葉の本当の意味を知ったのは、大切な命を亡くしてからでした。

娘の江角真理子（当時20歳）は、1999年12月6日、友人と車で出かけた帰り道の国道53号線で、対向車線をはみ出した飲酒運転の乗用車に正面衝突され、友人2人と共に突然亡くなりました。

突然に殺された娘たち犠牲者は、生きたくても、生きることができなかった人たちなのです。もっと生きたいという基本的な人権を奪われた人たちです。その死は、縁ある人々に強い影響をあたえました。その人々の悲しみは一生無くなることはありませんが、悲しみの質は、年ごとに変わっていきます。そして、「死んで娘はどこにいったのだろうか。いのちとは一体何だろうか。」と考え続けました。

考えて行くうちに、「いのち」には、「見えるいのち」と「見えないいのち」の2つあることを確信しました。「見えるいのち」とは、呼吸して生きている間の限りあるいのちであり、「見えないいのち」とは、「生物を連続させていくもとになる力」と説明されるもので、「リレーされるいのち」と言えます。生物学的には親子代々受け継がれる遺伝子が相当します。

私たちの命は、父母から誕生し、その父母は祖父母から誕生し、そして祖父母は、曾祖父母から誕生してきました。遡ってゆくと、人類が出現したのは今から約6000万年前であり、最初の生命は約40億年前の海の中で誕生したと考えられています。それ以前は物質であった。現代科学では、物質は光から生成されることが分かっています。その光は、137億年前の宇宙誕生のビッグバンから出たものです。だから、私たちの親様は「ひかり」なのです。

私たちの「見えるいのち」は自分で造った「いのち」ではない。137億年前に宇宙ができたときから準備されている無数のご縁【見えないいのち】によってつながってきた「いのち」です。私たちは、大宇宙（ひかり）から生まれて来ているので、「宇宙の子」であり、「見えないいのち」によって、人や物とつながって（助けられて・おかげさまで）生かされています。亡き人は、「見えないいのち」になっていて、いのちのメッセンジャーです。メッセンジャーは、「いのちの尊び」、「いのちを大切に」との願いを持っています。

「いのちをみつめる」と ①人は皆尊く、自分もまた尊い、②私たちが今、生きているのは「あたりまえ」ではなく、『おかげさま』であると言えます。